



孤立性上腸間膜動脈解離を来す画像所見の特徴の探索

2011年1月1日から2022年9月30日までに急性発症の上腸間膜動脈解離と診断を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「孤立性上腸間膜動脈解離を来す画像所見の特徴の探索」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2011年1月1日より2022年9月30日までに日本医科大学付属病院にて、急性発症の上腸間膜動脈解離と診断を受けた患者さんのCTの画像所見に関して調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただくず、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：孤立性上腸間膜動脈解離を来す画像所見の特徴の探索
研究期間：研究実施許可日～2026年3月31日
研究責任者：日本医科大学付属病院 放射線科 講師 上田 達夫

(2) 研究の意義、目的について

急性発症の上腸間膜動脈解離は比較的稀な疾患であり、定まった治療法はありません。大部分は投薬などの保存的治療で軽快しますが、一部で腸管虚血や壊死を来すことがあり、侵襲的な治療（血管内治療や外科的治療）を要することがあります。そこで撮影されたCT画像を用いて腸管虚血や壊死を来す画像的な特徴を解明することで早期に適切な治療介入を行うことができる可能性があります。当研究では上腸間膜動脈解離の腸管虚血や壊死を来し得る画像的特徴に関して解明することを目的としています。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2011年1月1日より2022年9月30日までに日本医科大学付属病院にて急性発症の上腸間膜動脈解離と診断された患者さんについて以下の試料・情報を収集、使用します。

試料：なし

基本情報：年齢、性別、既往歴、入院期間、治療後生存日数、治療法など

血管造影画像、CT画像：解離の形態評価、血管の狭窄率、解離および炎症の進展範囲、解離の存在する部位と病変の長さ、側副路（主要な血管に狭窄・閉塞が見られた際に、血液循環を維持するために新たに自然形成される血管の迂回路のこと。今回は上腸間膜動脈解離に伴う上腸間膜動脈の狭窄・閉塞のことを指す。）の発達の有無や程度など

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 放射線科 大学院生(嘱託医) 白井 清香
〒113-8603 東京都文京区千駄木1-1-5
電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：24187
メールアドレス：s-shirai@nms.ac.jp